



第42号

発行 伊仙町議会

〒891-8293

大島郡伊仙町伊仙1842

事務局 ☎ (0997) 86-3111

編集 議会広報編集委員会

印刷 (有)奄美新生社印刷

伊仙町議会だより



平成26年第1回伊仙町議会定例会開会前の様子。全議員が町民の負託に応えられるように、与えられた議席で任期中全力を尽くし、福祉向上と住みよい町づくりを目指します。町民の皆様の議会傍聴と議会中継のご視聴をよろしくお願い申し上げます。伊仙町議会

目 次

- 平成26年度伊仙町一般会計他6特別会計予算審査報告…………… P 2～6
- 平成26年第1回伊仙町議会定例会採決・陳情結果一覧…………… P 7
- 一般質問通告一覧（平・牧・美山・美島・岡林・琉6議員登壇）… P 8～P 13
- 議会の動き…………… P 16

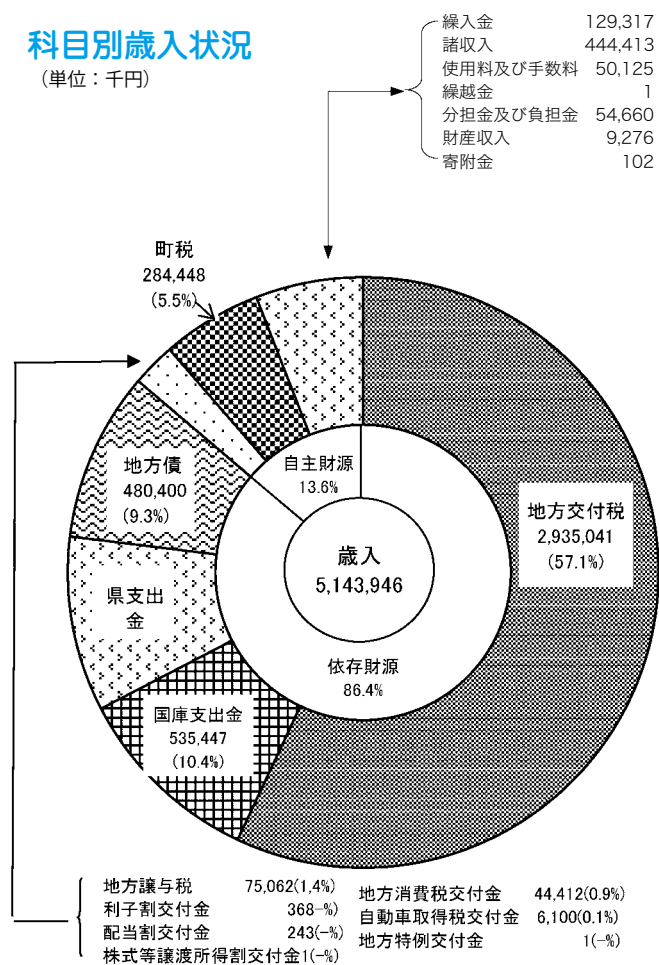
平成26年6月議会についてのお問い合わせは、伊仙町議会事務局（86-3111 内線16）までお問い合わせください。

※過去の議会の内容に関しては、こちらのアドレスまで<http://www.town.isen.kagoshima.jp/>

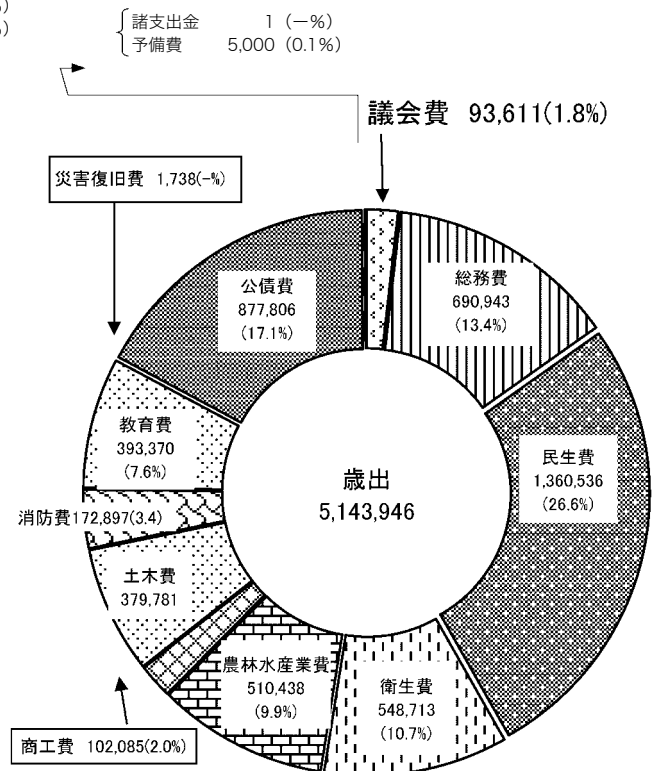
平成26年度一般会計予算 51億4,394万6千円

(前 年 度 と 比 較 し て 7 % の 増 で す 。)

科目別歳入状況
(単位：千円)



科目別歳出状況
(単位：千円)



平成26年度 一般会計歳入歳出予算対前年度比較

(歳 入)							(歳 出)						
							(単位:千円, %)						
款	平成26年度 当初予算額 A	構成比 %	平成25年度 当初予算額 A	構成比 %	比較 A-B=C	伸率 C/B %	款	平成26年度 当初予算額 A	構成比 %	平成25年度 当初予算額 B	構成比 %	比較 A-B=C	伸率 C/B %
1 町 税	284,448	5.5	274,940	5.7	9,508	3.5	1 議 会 費	93,611	1.8	91,083	1.9	2,528	2.8
2 地 方 譲 与 税	75,062	1.4	74,026	1.6	1,036	1.4	2 総 務 費	690,943	13.4	686,819	14.3	4,124	0.6
3 利 子 割 交 付 金	368	0.0	600	0.0	△ 232	△ 38.7	3 民 生 費	1,367,563	26.6	1,215,557	25.3	152,006	12.5
4 配 当 割 交 付 金	243		105	0.0	138	131.4	4 衛 生 費	548,713	10.7	498,995	10.4	49,718	10.0
5 株式等譲渡所得割交付金	1		1	0.0	0	0.0	5 農 林 水 産 業 費	510,438	9.9	590,947	12.3	△ 80,509	△ 13.6
6 地 方 消 費 税 交 付 金	44,412	0.9	43,221	0.9	1,191	2.8	6 商 工 費	102,085	2.0	46,741	1.0	55,344	118.4
7 自 動 車 取 得 税 交 付 金	6,100	0.1	12,212	0.3	△ 6,112	△ 50.0	7 土 木 費	379,781	7.4	335,357	7.0	44,424	13.2
8 地 方 特 例 交 付 金	1	0.0	1	0.0	0	0.0	8 消 防 費	172,897	3.4	126,138	2.6	46,759	37.1
9 地 方 交 付 税	2,935,041	57.1	2,854,331	59.4	80,710	2.8	9 教 育 費	393,370	7.6	366,539	7.6	26,831	7.3
10 交通安全対策特別交付金	1,600	0.0	1,600	0.0	0	0.0	10 災 害 復 旧 費	1,738		1,738	0.0	0	0.0
11 分 担 金 及 び 負 担 金	54,660	1.1	60,664	1.3	△ 6,004	△ 9.9	11 公 債 費	877,806	17.1	842,930	17.5	34,876	4.1
12 使 用 料 及 び 手 数 料	50,125	1.0	49,825	1.0	300	0.6	12 諸 支 出 金	1		1	0.0	0	0.0
13 国 庫 支 出 金	535,447	10.4	429,917	8.9	105,530	24.5	13 予 備 費	5,000	0.1	5,000	0.1	0	0.0
14 県 支 出 金	492,929	9.6	367,256	7.6	125,673	34.2							
15 財 産 収 入	9,276	0.2	9,467	0.2	△ 191	△ 2.0							
16 寄 附 金	102	0.0	102	0.0	0	0.0							
17 繰 入 金	129,317	2.5	69,408	1.4	59,909	86.3							
18 繰 越 金	1	0.0	1	0.0	0	0.0							
19 諸 収 入	44,413	0.9	42,168	0.9	2,245	5.3							
20 町 債	480,400	9.3	518,000	10.8	△ 37,600	△ 7.3							
歳 入 合 計	5,143,946	100.0	4,807,845	100.0	336,101	7.0	歳 出 合 計	5,143,946	100.0	4,807,845	100.0	336,101	7.0

平成26年度各特別会計歳入歳出予算 (単位:千円)

伊 仙 町 国 民 健 康 特 別 会 計 予 算	1, 1 7 6, 0 6 8
伊 仙 町 介 護 保 険 特 別 会 計 予 算	9 3 5, 7 9 2
伊 仙 町 後 期 高 齢 者 医 療 特 別 会 計 予 算	1 8 1, 5 8 4
徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算	1 1 0, 1 4 4
伊 仙 町 簡 易 水 道 特 別 会 計 予 算	3 7 8, 1 8 7
伊 仙 町 上 水 道 事 業 会 計 予 算	9 4, 7 4 8
合 計	2, 8 7 6, 5 2 3

平成 26 年 第 1 回 伊仙町定例会

平成 26 年度 伊仙町一般会計 他 6 特別会計予算審査特別委員会 委員長報告書 (平成 26 年 3 月 20 日)

当初予算審査特別委員会の委員長報告をします。

去る 3 月 11 日の本会議において、当初予算審査特別委員会が設置され、「平成 26 年度伊仙町一般会計他 6 特別会計予算」を付託し、3 月 17 日、19 日の 3 日間、集中審議致しました。

審議の詳細について、順次ご報告申し上げます。

まず、今回の特別委員会設置にあたり、委員長より各委員に「特別委員会の趣旨として、本町の行財政運営を賄ううえで重要な年間予算であることから、今後の財政の見通しを鑑みたく、建設的な質疑をして頂くとともに、改めて町民の代表であることを自覚して予算審査を行うよう」要請いたしました。

このことを踏まえ、3 月 17 日、18 日の 2 日間において各種予算に関わる担当課の職員に説明員として出席を要請し、歳入歳出について詳細な説明を頂きました。説明終了後には、常任委員会ごとに分かれて各会計の予算項目を精査し、現地調査の必要な場所の選定を行ったうえで、3 月 19 日の午前中に現地調査を実施しました。

施しました。

現地調査の行程については、平成 26 年度伊仙町一般会計予算に関する調査を 5 件行い、まず 1 件目は「7 款 4 項 1 目 12 節内の産業廃棄物手数料、また 14 節の重機借上げ料」に関して、老朽化により取り壊しが予定されている目手久地区の町営住宅について、地元住民より倉庫として活用したい旨の要望があるとの意見が委員より出されました。また、目手久地区の駐在員及び要望を出された地元住民にも直接意見を聴取した結果、要望している件について町側よりご理解いただけた場合は、地元住民の所有している農地と同物件の敷地を用地交換してもよいとの意見が出されましたが、今後町執行部と地元住民と正式な交渉の場を持ち、この件についての予算執行は、交渉状況に応じて慎重に対応していくよう担当課へ要請しました。



老朽化して、空家となっている町営住宅
(西目手久集落)

2 件目は、「7 款 2 項 5 目の社会資本整備総合交付金事業(第二西下線)」について、担当課より今後の計画を踏まえて、工事の進捗状況について説明がありました。このことについて、交通アクセスの利便性や安全性の確保の観点から、事業目的に沿って適正に事業執行されてはいたしましたが、第二西下線と県道をつなぐ周辺道路の幅員など未だ課題が残されている箇所があり、今後の事業進捗にあたっては、慎重に協議をおこなうたうえで道路整備を行うよう担当課へ要請いたしました。



町道(第二西下線)の進捗状況調査(目手久地区)

3 件目は、「7 款 4 項 2 目の馬根団地住宅建設事業費」について、担当課より今後の住宅建築の工程について説明を受け、その後建設地の馬根地区の駐在員からも意見を聴取した結果、建設完了後の居

住希望者の状況について、町外より若い子育て世代の家族を中心に7件の要望があることや、住宅の構造についても、地元集落の意向に沿った形で、町執行部が今回の建設計画にしっかりと反映した点について評価すべき点がありました。今後は、工事を進めるなかで、特に災害対策や外構工事など、考えられるすべての問題をクリアできるように、地元住民並びに工事受注業者と協議を重ねながら工事を進めていくよう要請いたしました。



町営住宅馬根団地建設予定地の調査（馬根集落）

4件目は、「7款2目4項社会資本整備総合交付金事業費（伊仙・馬根線）」について、担当課より現在の進捗状況について説明があり、道路整備に関する工作物等補償費などが適正であるか現地調査を行ったところ、周辺の状況や、

今後の計画を考慮して、今回の予算計上は適正であるとの意見が委員全員より出されました。今後は、他の予算項目の執行にあたっては、無駄のない予算執行をされるよう要請いたしました。



町道（伊仙―馬根線）予定地の調査（尺八浄水場近く）

現地調査の最終地として、「施政方針内にある（園芸振興）」について、新規作物として推進中のまあざくとコーヒー苗の育苗状況について調査を行いました。現在、農高跡地のハウスにおいて担当課の職員と非正規職員の2名体制で管理をしており、約9,000本の苗を育苗中であり、今後はこの苗を会員だけでなく、町民へも産業祭などを通じて無料配布して周知徹底を図るなど、生産から販売にむけたPR活動を積極的に講じていくよう担当課へ要請いたしました。



新規作物のまあざく（長命草）とコーヒー苗の育苗状況調査（農高跡地ビニールハウス内）

次に、同日午後より再開された7会計について、各委員より出された主な質疑内容と答弁についてご報告いたします。

まず、「議案第15号 平成26年度伊仙町一般会計予算」の歳入について、公園休憩所貸付収入においては、犬田布岬の公園改修工事により、全額までは歳入として見込めないのではとの質疑に対し、担当課より工事により収入が見込めない部分に関しては、補正等において対応していきますとの答弁がありました。

歳出については、新規採用職員に関して採用発令に関する時期や人件費についての質疑があり、4月からの3か月間は臨時職員として事務賃金を計上しており、採用発令については順次行っていくとの答弁がありました。

次に、総合計画書の更新時期にあたり、印刷製本費が100万円計上されていることについて、総合計画書の内容が10年を目途に計画されているが、10年の間に計画がそぐわない部分が出てくると思うが、これを5年毎に計画を見直すなど考慮する必要があるのではないかと質疑に対し、例年は10年計画として前期5年、後期5年と分けて計画を策定していたようですが、今回は工夫をして、前期3年、中期4年、後期3年と割り振りをし、見直し時期を早めていきたいとの答弁がありました。

次に、航路航空路運賃軽減等事業負担金について、奄美群島民の一般客や観光客などの負担軽減策として、それぞれ割引を講じていくと聞いていますが、学生や島出身の方々が帰省する際に、この割引の適用範囲を拡大する考えはあるのかとの質疑に対し、学生などはスカイメイトなどで現在も割引されているが、現時点では観光客誘致ということ、いろんなキャンペーン等で対応していきたいとの答弁がありました。また、町長からは「先般国土交通省から話を聞いたところ、

今はまだ流動的であるのとことで、地元から要望が出されていますが、冠婚葬祭等で帰省する際に、同じ割引率を適用できるかというようなことについては、鹿児島から徳之島間は可能になる確率が高いですが、そのかわり島内在住者が鹿児島まで57%の割引があるというのは優遇されすぎではないかとの意見もあり、それを50%以下にして、その分を島外からくる観光客や出身者に配分していくというところも考えられます」との答弁がありました。

次に、助産費等補助繰出金について産科医がいなく、随時産科医確保について働きかけていくことができないかとの質疑に対し、現在徳之島の医療を考える会において、平成25年度については県の補助金も頂いており、支援策としてこれらを進めてまいりました。その結果、今年の4月から2名の常駐医を確保することができました。不足するところになれば、市立病院と連携をとっており、更に県からも支援を頂いているので、そのなかで対応できると思いますとの答弁がありました。

次に、シルバー人材センタ

ー運営補助金や直売所百菜による貸付金については、自立していけるようにしっかりと決算状況を鑑みて、予算配分するように質疑があり、これらの件については、決算状況を十分に考慮したうえで判断していく旨の答弁がありました。

農業関連の予算項目については、有害鳥獣の駆除に関する報償費が他の町と比較して、均等でないことから今後は糖業振興会などからも助成してもらうことも検討したうえで、報償費について見直す必要があるのではないかと質疑に対し、今後同額になるように鋭意努力していくとの答弁がありました。

さらに、さとうきびの増産については、農家に手厚い施策等を講じることは考えられないかとの質疑に対し、関係機関とも協議して増産意欲を高める為に農家を指導していきたいとの答弁がありました。

農林水産物輸送コスト支援事業負担金については、どういった作物を選定しているかとの質疑に対し、現在品目は調整中であるとの答弁がありました。

6次産業化推事業費につい

ては、廃目となっていました。が施政方針のなかで「農商工連携と6次産業化を引き続き推進し、より付加価値の高い農産物の販売手法を探り農業所得向上を目指します。」と明記されているが、施政方針と当初予算書、または年次の計画を盛り込んだ総合計画書との整合性が図られていないことも指摘事項として挙げられました。このことに関して担当課では、徳之島営農推進本部において対応していく旨の答弁がありました。

が、今後の町の農業政策において重要な政策であることから、今後検討していく必要性を感じられました。

次に、電子入札制度に関しての質疑があり、平成27年度から本格的に導入する予定であり、今後1年を通じて他の導入した町村や県の指導を受けながら、本格的な導入に向けて準備を進めていきたいとの答弁がありました。

住宅建設については、各種計画に基づいて建設されているが、入居後の住宅料の徴収率については質疑があり、現年度においては95%以上の徴収率となっているが、滞納分に関する徴収率が伸び悩んでいることから、現在弁護士を通

じて、法的措置を講じながら徴収にあたっているとの答弁がありました。

これら住宅料をはじめ、各種税金・負担金関係については、財政運営を行ううえで非常に重要な財源であり、これらの徴収率が上がらないことで、実質単年度収支は赤字に転落することも考えられ、しいては主な事業計画等がすべて見直しを迫られる恐れもあることから、各種税及び負担金を取扱う担当課においては、これまで以上に緊張感と責任感をもって職責を果たされるよう要望いたします。

教育関連の予算項目については、全体的に適正な予算措置を講じられていますが、カミイヤキ窯跡に関する前回の指摘事項について、是正されている様子が伺えない箇所も見受けられ、今回策定される計画書に於いて、対応するとの答弁がありました。が、当特別委員会としては、迅速に対応できるものに関しては、確実に対応されるよう望むものであります。

また、図書蔵書数に関しても、他町と比較して不足している感が否めないことから、生涯学習において重要な時期に、必要な参考文献がな

いことは、町の宝である子供たちの今後の教育課程において致命的であり、今後は図書の蔵書についても、予算措置されるよう要望いたします。

以上のことを踏まえ、「議案第15号 平成26年度伊仙町一般会計予算」は起立採決の結果、全会一致で原案可決することと決定しました。

続いて、「議案第16号 伊仙町国民健康保健特別会計予算」「議案第17号 伊仙町介護保険特別会計予算」「議案第18号 伊仙町後期高齢者医療特別会計予算」の3件については、適正に予算措置が講じられていましたが、そのなかで、今後は医療費の抑制に向けて担当課の更なる努力を期待し、特に包括支援や保健センターが実施している介護予防や若年層の生活習慣病をはじめとする主な病気の予防にむけて、町を挙げて啓発活動に努められることを強く要望いたします。

以上を踏まえ、「議案第16号 伊仙町国民健康保健特別会計予算」「議案第17号 伊仙町介護保険特別会計予算」「議案第18号 伊仙町後期高齢者医療特別会計予算」については、起立採決の結果、全会一致で原案可決することと決定

しました。

続いて、「議案第19号 徳之島交流ひろば」「ほーらい館」特別会計予算について、指定管理者制度に向けて努力している様子が伺えますが、いずれも経費削減の点で合致しないとの理由で断念していることから、改めてほーらい館運営審議会や町財政担当と指定管理者制度公募に関する募集要項の見直しを含めて協議し、指定管理者制度に向けて新たな施策を講じることを要望いたします。

以上を踏まえ、「議案第19号 徳之島交流ひろば」「ほーらい館」特別会計予算については、起立採決の結果、全会一致で原案可決することと決定しました。

続いて「議案第20号 伊仙町簡易水道特別会計予算」「議案第21号 伊仙町上水道事業会計予算」の2件については、長年町民から寄せられている水質改善や、老朽管の更新、水道使用量の徴収など様々な課題が山積しているなかで、担当課が日夜努力されていることについては、敬意を表します。そのなかで、西部地区による水質改善や電気料金節約の方策として、表流水の利用について本格的に調査を行

うことと決定

い、安心・安全な水の供給について財政面を考慮しつつ、少しずつではあります但町民の要望に応えられるよう、今後も鋭意努力されるよう要望いたします。

以上を踏まえ、「議案第20号 伊仙町簡易水道特別会計予算」「議案第21号 伊仙町上水道事業会計予算」については、起立採決の結果、全会一致で原案可決することと決定しました。

以上、当特別委員会に付託されました7会計については、すべて原案可決することとして特別委員会は閉会いたしました。

結びに、財政難の折、平成26年度における予算編成にあたっては、町職員すべての英知を集結されたことを高く評価いたしますが、今後の町の財政の行方を左右する自然災害や非常時に対応するために、弾力性のある予算執行を平時から心がけ、職員全員が伊仙町のリーダーであることを自覚しつつ、益々研鑽されることを期待します。

われわれ議会議員といたしましても、今後は議会改革の一環として毎月開催の全員協議会並びに常任委員会の活動を通じて、今回原案可決され

ました予算について、議会の権能であるチェック機能を最大限に発揮し、町執行部とともに町民の福祉向上と町勢発展に寄与することをお誓い申し上げます。

平成26年3月20日

伊仙町議会

当初予算審査特別委員会

特別委員長 樺山 一



第57回奄美群島市町村議会議員大会開催（宇検村）

去る、平成26年5月22日に宇検村で開催されました、「第57回奄美群島市町村議会議員大会」において、徳之島三カ町議会（伊仙町提案）提出議題として「鹿児島県立徳之島農業高等学校跡地に大島養護学校分校設置を求める事について」を再度要望いたしました。

この件については、平成23年に伊仙町で開催された同大会において提出した経緯もありますが、その後平成25年4月に徳之島高校の空き教室を利用した大島養護学校高等部の訪問教育が実現し、3名の生徒が自宅から学校へ通うことが可能になりました。しかし、特別支援教育を必要とする児童対象者が年々増加していることから、更なる環境整備と島全体が「ノーマライゼーション（障がい者と健常者が区別されることがなく、社会生活を共にすることとした考え方）」の意識啓発に向けた活動を徳之島三カ町議会として継続して行くことが必要だと考え再提出致しました。

この提案事項に対し、鹿児島県議会 禧久 伸一郎 議員より「長年、この件について、要望がなされていることについて、切実な問題であると受け止めている。これを受けて、徳之島並びに沖永良部島に訪問教育を実施されることになりました。しかしながら、今後の環境整備に向けて財源の問題や教職員の確保等、検討すべき課題があると考えています。また、その事を検討していくにつつ、現在の訪問教育での実情や関係機関との連携を模索していくことも含めて、研究すべき課題であると位置づけており、決して否定はしておりません」との回答を頂きました。

本町議会といたしましても、三カ町議会並びに関係機関と連携し、徳之島の特別支援教育の充実並びに就労支援を柱とした要望活動を更に継続していく必要があると感じました。町民の皆様におかれましても、要望活動の一端である署名活動にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

※署名用紙は、伊仙町公式ホームページよりダウンロードできます。

①町HP ⇒ 暮らし情報 ⇒ 議会事務局 ⇒ 署名願ひ



議員大会において、三町議会を代表して提出議題の朗読をする樺山 一 総務文教厚生常任委員長（宇検村総合体育館）

平成26年 第1回伊仙町議会定例会 全議案(会期3/11~20)

番 号	議 案 名	採決結果
議案第3号	伊仙町子ども・子育て支援会議条例	原案可決
議案第4号	伊仙町学校施設使用条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第5号	伊仙町社会教育委員設置条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第6号	伊仙町体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第7号	伊仙町公民館の設置及び管理等に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第8号	伊仙町面縄コミュニティセンターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第9号	伊仙町国民健康保健税条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第10号	伊仙町水道給水条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第11号	平成25年度伊仙町一般会計補正予算(第7号)	原案可決
議案第12号	平成25年度伊仙町国民健康保険特別会計予算(第3号)	原案可決
議案第13号	平成25年度伊仙町介護保険特別会計補正予算(第4号)	原案可決
議案第14号	平成25年度伊仙町後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)	原案可決
議案第15号	平成26年度伊仙町一般会計予算	原案可決
議案第16号	平成26年度伊仙町国民健康保健特別会計予算	原案可決
議案第17号	平成26年度伊仙町介護保険特別会計予算	原案可決
議案第18号	平成26年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算	原案可決
議案第19号	平成26年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算	原案可決
議案第20号	平成26年度伊仙町簡易水道特別会計予算	原案可決
議案第21号	平成26年度伊仙町上水道事業会計予算	原案可決
追加議案		
議案第22号	伊仙町町営住宅設置及び管理条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第23号	普通財産無償貸付契約について	可 決

平成26年 第1回伊仙町議会定例会 提出陳情審議一覧

番 号	件 名	採決結果
陳情第1号	「特定秘密保護法」の撤廃を求める陳情	文書配布
陳情第2号	TPP(環太平洋連携協定)交渉に関する陳情書	採 択
陳情第3号	日本マルコ株式会社伊仙町事業所及び社員住宅等阿権集落地内誘致の陳情書	継続審査
	以下余白	

平成26年 第1回伊仙町議会臨時会 全議案(会期2/4)

番 号	議 案 名	採決結果
議案第1号	平成25年度伊仙町一般会計補正予算(第6号)	原案可決
議案第2号	平成25年度伊仙町介護保険特別会計補正予算(第3号)	原案可決
	以下余白	

平成26年 第1回定例会

一般質問



平議員

問

Aコープ誘致に伴う今後の町づくり計画について、現在建設中のAコープ周辺は保育園、幼稚園、小学校があり、またほーらい館や仙寿の里など利用者の多い施設も隣接しており、Aコープのオープンと同時に車両等の交通量が増加することが考えられます。しかしながら、各施設の利用に関わる住民やお客様の安全の確保の点を考慮した道路整備がなされていない箇所が見受けられ、大変危険な状態であります。県道（役場く佐井地区）においても歩道が整備されていない状況が長年続いております。これらを踏まえて

答

今後、歩道確保等を含む道路整備事業について、町としてどのように考えているのか問う。

これは、これから町の町づくり者にも優しい町づくりをするという事が重要になってきています。今、日本の地方都市において、中央にマンションが建設されているのは、高齢者の方々が周辺で買い物ができ、また他の施設もあるという利便性を考慮して、コンパクトシティという形が大きな流れであります。この伊仙町においてもコンパクトシティのような可能性があるのは、ほーらい館周辺が最適な地区であります。ですから、インフラ整備や道路網の整備は絶対に必要であり、今後はバリアフリーの形の町づくりを考えていく

問

現在、伊仙町学校給食センター等の各施設に、町内のスーパーや商店街が食料品等を納入していると思われるが、Aコープ出店に伴い、今後町としてはどのような対応をするのか。

必要があると思います。県道が改修できていない地域については、役場前から検福の稲葉商店前、そして目手久、佐井地区、西部地区は、今後工事が始まりますが、今後も県と相談をしながら鋭意努力をしていきます。

給食センターとしては、児童生徒の健康と栄養面を最優先に考え、食材を購入する際に、鮮度や品質、栄養価等をチェックします。また、予算に見合った値段であるかどうかを考慮し、どこの業者を優先するとかではなく、良質の食材を常に購入することを心がけています。

問

価格や品種によって色々あると思います。現在町外から購入されている食材もあると思いますが、現在町内・町外それぞれ購入状況の比率はどうなっているのか。また、町内で購入できる食材については、できるだけ町内業者を利用して頂きたいと考えがどうか。

答

昨年度の実績から申し上げますと、購入額が2,074万6,000円、そのうち地場産が334万6,000円で、全体の18%となっています。それ以外は、島外で指定された学校給食会より調達しております。しかしながら、町内から調達できる食材については、なるべく町内で購入するように心がけております。

問

日本マルコ株式会社との町内誘致について、西部地区に建設が予定されているとのこと、同社の事業所及び社員住宅等

を具体的にどの集落に誘致する考えなのか。また、今後の予定についてどうなっているのか。

答

昨年の5月18日、日本マルコ株式会社より副社長2名が伊仙町へ来町し、西部地区において交通アクセスの利便性などインフラ整備がなされている土地ということを条件に、企業の立地に適した場所の視察を行い、現在同社においては、ほぼ糸木名地区で決定になっているとのことであります。

問

企業誘致は、学校存続等、小規模校区の住民にとっては大変深刻な問題であります。西部地区でも一極集中型ではなくて、誘致の効果が同じ西部地区周辺に各集落にも得られるように協議することも必要だと考えます。今後、このような協議の場を設ける考えはあるのか。

答

日本マルコ株式会社は、民間企業である

ため、即答することはできませんが、同社は地元に着した企業運営を目的とし、地域と共に発展していくことを目指している企業でありますので、要望等を伝え、それに応じて頂けるようにお願いする予定にしております。また、同社は自社企業による宿舍建設だけでなく、民間による住宅の一括借上げということも視野に入れ、地域の皆様の協力のもと、伊仙町の発展のために取り組んでまいりたいと思います。

問 学校存続問題等、本
当に企業誘致は深刻な問題だと思えます。そういった面を考慮しても社員住宅等は、小規模校区に作る必要性があると考えております。また、このような働きかけが西部地区全体の発展にもつながると考えています。町としての考えは。

答 小規模校区にとって
は、人口増がどうし

ても必要になってくると思いますので、日本マルコ株式会社に要望いたしましたし、小規模の小学校、中学校へ通えるような住宅づくりを要望してまいります。



牧議員

問 水道行政について、
河川やミニダムなど、表流水がありながら、地下水に依存している現状を踏まえ、西部地区を中心に多くの町民が水質改善を強く要望しています。早急にこれを改善できないのか。

答 西部地区の水質改善策といたしましては、水源の杉原川を原水とする河地浄水場への導水管の復活と、老朽化した河地浄水場の施設整備を行います。また、犬田布岳周辺の新しい水源を見つけないことも努力してまいります。

す。

問 各港（面縄港・鹿浦港、前泊漁港）の整備について、各港に近代化の水洗トイレ施設の設定、面縄港の未舗装部分の整備、前泊漁港の整備ができないか。

答 各港の水洗トイレについては、第5次長期振興計画で策定し、整備してまいります。各港の整備も長寿命化計画を策定済みですので、これに基づいて整備していきます。

問 農林水産業の振興について、本町でもイノシシ被害が多く、農家の営農意欲の低下を加速させて、農業生産額50億円達成に向けても阻害要因となっているが、対策は考えているのか。

答 現在、伊仙町猟友会の協力で、銃器、かな等で捕獲を行っており、26年度に箱わな5基を申請中で、山間部周辺のネッ

ト、網張りも他の2町を参考にしながら、努力していきたいと考えます。

問 新年度よりスタートする次期奄振の一括交付金で航路、航空運賃の助成が群島民向けに実施されますが、これを一般観光客などの入込客にも補助を拡大できないか。

答 群島民においては、現在の割引率が50%にアップされます。群島外住民には10%から30%に拡大し、観光客を対象とした運賃軽減については、実証事業や観光キャンペーン等で観光客にも利便性が得られるような事業を進めていきたいと思えます。

問 企業誘致について、東部、中部、西部と均衡のとれた発展の為、日本マルコ株式会社は西部地区ということでしたが、場所決定しているのか。また、空港と港に近い場所が最適と考えるが町長の見解

は。

答 糸木名地区という形で、日本マルコ株式会社内においては、ほぼ決定しており、また企業誘致の要望を最優先することを旨として、交通アクセスの利便性、インフラがすぐに活用できる場所が最適であると思います。

問 教育環境の充実について、平成25年度に各学校を訪問し、要望を拝聴したうえでパソコンを導入し、大変喜ばれている。他にも要望はあったと思うが年次的に整備できるか。

答 引き続き、今年度も当初予算で職員用と児童生徒用のパソコンを購入入できるよう計上してあります。今後も教材の整備や施設の整備等計画的に進めていきたいと思えます。



美山議員

問

伊仙町地域防災への取り組みと自主防災について、「伊仙町地域防災計画」は、平成7年度改正されたままですが、本年度中に速やかに改正できないか。

答

防災計画は見直しを大体終えております。ただ、26年度に県の見直しや防災会議を受けて、その後に町段階で作成しなければならぬということ、要望どおり速やかに26年度にはこれをまとめていくかと思っています。

問

伊仙町地域防災計画では、面縄小学校の避難場所、面縄小学校の体育館となっております。古里集落の避難場所についても、面縄小学校体育館となっている。また、喜念小学校など避難場所について

は、避難道路及び海拔等の関係から避難場所として適正であるか。今後、防災計画及び自主防災組織を見直して、住民や小学校、保育園へ早急に指導を行う考えはないか。

答

避難場所について見直しを既に終えて、学校の方にもそういう旨を伝えて、訓練もそういう方向で取り組むように学校とも連携を進めております。伊仙町の避難地域の37カ所のうち2カ所については見直しをしております。防災計画及び自主組織の見直しを進めて指導していくことについては、これは駐在員会等と通じて自主防災についてお願いをしておりますが、まだまだ十分、災害に対して機能し得る状況にはないと思いますので、今後集落を単位とした防災活動を、訓練を通して独自にしていかなければいけないと考えております。

問

徳之島三町合同防災訓練は現状どおりで適正と考えているか。

答

徳之島三町合同防災訓練は昨年までに3回行われました。これは、3年前の東北大震災、原発事故を踏まえての防災訓練です。伊仙町の参加者が非常に少ないという状況などは、今後考えなければいけませんけれども、この3回の自主防災訓練でかなりの意識の向上が出てきたし、いろんな連絡体系とか、例えば聴力障害の方々などにいるかなど、課題も見えてまいりました。現在、南海トラフが非常に危機感をもってマスコミ等で報道されております。そうした場合、県内において志布志地区と奄美群島の徳之島町の東海岸が最も危険な地域であると今データにも出ておりますので、島全体としての危機管理体制も含めて考えているところです。

問

防災マップの見直しを含め、住民にわかりやすいマップと標高が記載されている標識の設置をする必要があるのではないかと。

答

防災マップの見直しは、26年度中に見直しをして、県の防災会議が終わった段階で我々はそれを受けて、見直しをして防災マップも再発行し、全戸配布したいと考えているところであります。標識は、既に34カ所海拔標識を町内に設置いたしております。また、これで不十分だということであれば、更に増やしていくかなければいけない



美島議員

問

農業振興について、農業生産額50億円達成は、伊仙町発展の原点である。農家所得向上には、行政が一体となって取り組

問

災害時における防災マイクや電話の取り扱いについて、確実に住民へ伝達可能な体制作りを行っているのか。

答

危機管理対策については、奄美の豪雨災害を参考して考えたときに、いろんなサービスを考えていかなければなりません。特に現在サービスでお願いしているのは、NTTドコモにエリアサービスを伊仙町内にできないかなど、他のauやソフトバンクにもそういう場合に順次契約をしていくという予定にしております。

問

むことが重要であります。基幹作物のサトウキビの増産、畜産振興には粗飼料(草)の生産、果樹、野菜園芸等における、専門的指導者の配置等、農業振興にどの様な対策を講じていくのか。

答

3年連続農業生産額は減少しております。

す。伊仙町の農業生産額は、平成22年度は42億円、23年度は35億円、24年度は31億円となっております。今後は、共済加入を進めるとともに、オール伊仙町で基金を作つて、農家の方々の負担を軽減していく方法も非常に良い提案だと思えます。また、4月から伊仙町出身の方で、専門員が県から出向で経済課に来て頂きます。6次産業化にむけて付加価値の高いサトウキビ生産に幅を持たせるため、特産品製造販売プロジェクト事業が始まります。今後は、奄美群島成長戦略ビジョンに基づいて、伊仙町農業振興計画書を立ち上げて、農業振興に取り組んでまいります。人・農地プラン策定においては、都道府県単位に農地中間管理機構を設立して農地の集積を行い、地域の担い手や新規就農者などに貸し付けいたします。予算の増額等は補正で対応していきたいと考えております。

問

企業誘致について、Aコープ誘致で地元商工会（商店）の衰退が考えられるが、町（行政）として対応は考えているのか。

答

伊仙町の購買の8割近くが町外で購買していることを考えると、Aコープが来ることで相乗効果を生み出すチャンスだと考えております。商工会、スタンプ会の提案を頂いて、Aコープと共存共栄できるような形のなかで買い物客のニーズに応えられるような施策を取り入れてまいります。今年度においても、子育て支援金として、出産祝い金の2分の1を商工会の商品券に活用し、さらにプレミアム付商品券の発行行事として、昨年の倍額の200万円計上させて頂きました。また、商工会と連携し商店の活性化、所得向上に努めてまいりたいと思います。

問

日本マルコ株式会社への誘致について、時期、場所、奄振予算活用について問う。

答

平成26年度中に場所を確定して、造成を行う予定であり、27年度中に工事建設を行い、28年度より本格稼働にもつていきたいと考えています。場所については、糸木名地区を予定しております。奄振予算活用につきましては、民間企業による企業立地であり、詳しい内容については、差し控えさせていただきます。

問

教育行政について、子供は島の宝とよく言いますが、島の宝を守ることは家庭、学校、地域が一体となつて取り組むことが大切です。本場にそうであるのか。最近学力の低下、生活指導上の問題点などはないか問う。

答

学力については、基礎学力の定着に向け授業は教師の命でありま

す。特に家庭学習での取り組みに力を入れ、東部、中部、西部の幼稚園、小学校、中学校が連携して、学力向上に取り組んでおり、学力は向上していると思います。闘牛関係に關しては、各学校の生徒指導上の校則ということで、新たに見直しをしていきたいと思っています。

問

徳之島食肉加工センターの訴訟の件について、平成22年度、23年度事業で計画・施工した「徳之島食肉加工センター」新築工事の元請け業者と下請け業者との間で訴訟が起きていると聞か、町民への説明を求める。

答

現在この裁判が継続中でありますので、その結論が出ない中での説明は差し控えたほうが良いのではないかと今考えているところであります。

問

「保育料無償化」について、伊仙町を担う若者たちが住みよく子育てし易い町にするためには、消費増税に負けない位の思い切った子育て支援対策が必要だと思ふが、他町がやっているような保育料無償化は出来ないか。

答

わが町は、他町と違い、僻地保育所がある為、無料化にすると認可保育所に希望が殺到し、相応な混乱が予想されます。その為には、認可保育所をもう一カ所設置するなど、体制を整えないとなかなか難しく、それをクリアしないと無料化とは簡単には言えない状況であります。

問

保育料の負担の高い人と低い人の差が3万円位あると聞か、せめて高額負担者の負担を軽減



岡林議員

減するために、2万円位の頭打ちにするような方法は考えられないのか。

答 保育料の算定は、国の基準額に沿って作成しているのですが、今のところ半額などの軽減は難しい点があるというところであります。

問 企業誘致に伴うAコープ伊仙店進出について、①店舗周辺の整備（県道からAコープまでの道路拡張整備）、②町内施設への納品等、③配達車両の購入、④赤字の補填など、Aコープ側から要請があったと聞かすが、これらの要望に対して町として今後どう対応するのか。

答 ①については、Aコープの為に道を作る訳ではなく、町民の為に安全性を確保した道は作っていかねばなりません。②については、施設の事業者で選択して頂くというところで、町執行部から「どこから取りなさい」とか「今

取引している店を変えなさい」とか指定することはありません。③については、未だ決定はしていません。④について、赤字の補填はしません。これらは、Aコープから要求が来ただけの話です。

問 日本マルコ株式会社について、奄振事業を使って、町が土地と建物を作って提供するという話がありますが、町民からは、「町にそんな余裕があるのか」、「箱物はもう要らない」という声も聞かれるが、町としてどのような支援を考えているのか。

答 伊仙町企業誘致条例第4条の中に、「①用地及び施設等の斡旋、提供又は貸与、②道路、水道など公共施設整備推進、③その他必要な便宜、支援の措置を講ずる」とあり、伊仙町過疎地域産業開発促進条例第3条の中に、「資金及び労務の斡旋」、第4条の中に、「固定資産税の免

除又は奨励金の交付ができる」となっており、どうしてもある程度の支援策を行わないと企業としても進出してくることが、なかなか難しいという事ですので、町としても支援策は講じて行かなければならないと思っています。

問 奄振事業でも何割かは、町の借金になるようですが、その辺についてはどうなっているのか。

答 補助は50%、あと過疎債を活用した場

合、その75%が交付税で返ってくるので、起債分の25%が一般持ち出しとなります。これから先の話し合いです。これから先の話し合いとなると思うが、日本マルコ株式会社としても、建物を作ってもらうとなると自分の思っているような設計ができなくなる可能性もあるという事で、まだこの先は流動的な面もあります。が、出来る限り町の負担にならない様な形で、事業執行を行ってまいりたいと思っています。



琉議員

問 財政問題について、来年度より奄振予算の「奄美群島成長戦略推進交付金」が加わりますが、伊仙町においては具体的にはどの分野に投入する予定なのか問う。

答 成長戦略推進交付金について、まず農産物に関しては、各自自治体から県に提案いたしております。県がまとめている状況です。徳之島においては、サトウキビの輸送の燃料に関しても補助ができないかということなども陳情が来まして、現在議論をしている状況であります。航空路線に関しては、あくまでも地元の人たちが対象で

あるというのが原則でありますけども、それでは交流人口を増やしていくことになりませんので、キャンペーン事業やいろんな実験事業という形で徐々に変わっていくような状況です。

問 農政問題について、バレイシヨの価格安定化に向けた取り組みについて、伊仙町はどのような対策を行っているのか。

答 昨年バレイシヨは、価格暴落をしましたが、末端価格は毎年同じ価格であります。今後は、リレー出荷ができるかということにかかってきますし、ブランド化を活かして、安定化していくことと、品質管理には、かなり神経を注いでいかねばいけないと思います。1つ腐ったものがあるとか、他のものが混ざったりしますと、それだけで信用が落ちるということを踏まえて、真剣に対応していかなければいけないと思います。

問

奄美農業創出支援事業の活用により、生産基盤の向上を図りたいが、事業の制度規則が厳しいという声があり、規制緩和が進むなかで、以下の件、①土地の所有者でないと手続きができない。②土地の地籍調査の遅れなどについて対応ができないか。

答

奄美農業創出支援事業のハウスの件に関しましては、平張ハウスだけでなく、沖永良部の方では、強固な鉄骨ハウスの要望などがありますけども、いろんな問題などを解決して、これから付加価値の高い農業に向けて積極的に取り組んでいかなければならないと思います。

問

世界自然遺産登録にむけて、伊仙町の今後の取り組みと全郡の取り組みはどうなっているのか。

答

世界自然遺産懇話会のメンバーに入っ

おりまして、現在候補地の選定が明らかにされまして、奄美大島のほうでは、正確にまだ決めることができないのは、民間の所有者との最終的な刷りあわせができていない状況です。徳之島においての問題は、エリアが小さいことです。伊

仙町においては、4月から新職員を専門担当としてつけていきたいと思っております。今年の8月に国立公園になって、28年度中に自然遺産になるまでには時間がほとんどないということの中で、早急な対応を国や県から要望を受けている状況です。奄美大島では、さまざまな意識の啓発活動やガイドの養成などが進んでいますが、徳之島ではまだまだそういう取り組みが遅れている状況じゃないかと思

問

火災等について、町内の現状と対策はどうなっているのか。(消火活動や緊急時の人員及び緊

答

緊急車両等の配置など。) 緊急車両の配置でございますけども、消防車1台、水槽車1台、ポンプ車1台、工作車1台を緊急時に出勤できるように配置をしてございます。人員配置に関しましては、徳之島地区消防組合と連携をしながら、消防団長の指揮のもと、消防団員が消火活動を行っているということでありまして、なお、火災の予防に関しましては、消防団による年末の火災予防の広報活動、あるいは春・秋の全国交通安全運動に伴う広報活動、火災予防広報マップの編成、防災無線によるハカマ焼きに対する注意喚起等を行っております。



～ 全員協議会（常任委員会含む）を毎月開会 ～

「平成26年第1回伊仙町議会定例会」において審議されました、各会計予算や第4次伊仙町総合計画実施計画書等に基づく各種事業など、町当局が適正に執行されているかチェックするため、伊仙町議会はこの度、毎月第2金曜日に全員協議会（常任委員会を含む）を開催することとなりました。

全員協議会においては、各種課題について議員間の討議を行い、その後常任委員会で所管事務調査を実施したうえで、町執行部に対して政策提言や政策立案を行います。

町民の皆様におかれましては、各常任委員会の調査活動にご理解賜るとともに、対策や政策を究明するために御協力賜りますようお願い申し上げます。

（平成26年度開催予定日）※但し、定例会のある月は除く。

4月11日、5月9日、7月11日、8月8日、10月10日、11月14日、
1月9日（平成27年）、2月13日（平成27年）

※上記日程は、都合により変更することもありますので、予めご了承願います。

伊仙町議会議長	琉 理人
総務文教厚生常任委員長	樺山 一
経済建設常任委員長	前 徹志

議会議員研修・県内先進地研修状況

平成26年5月15日～16日
鹿児島市・指宿市・日置市



5月15日

(鹿児島市 ホテル ウェルビュー かごしま)
町村議会議員研修会に全議員・事務局参加



5月16日 (午前)

(指宿市 開聞農産物販売所 おふくろの里)
室内研修会時に出された漬物や大学いも(加工品)。これがすべて100円で提供されていました。



5月16日 (午前)

(指宿市 開聞農産物販売所 おふくろの里)
全品100円。購買意欲が掻き立てられます。



5月16日 (午後)

(日置市 鹿児島県立農業大学校)
農業大学校研修会館において、室内研修会



5月16日 (午後)

(日置市 鹿児島県立農業大学校)
ハウス内で育苗中の各種園芸野菜の苗。適正に管理されていました。



5月16日 (午前)

(指宿市 開聞農産物販売所 おふくろの里)
研修先からは、指宿市議会議長、事務局職員、農政課長、おふくろの里会員が出席



5月16日 (午前)

(指宿市 開聞農産物販売所 おふくろの里)
販売所内を視察。新鮮な野菜や花等がところ狭しと並んでいました。



5月16日 (午前)

(指宿市 開聞農産物販売所 おふくろの里)
平議員も、あまりの安さに驚きの様子。



5月16日 (午後)

(日置市 鹿児島県立農業大学校)
室内研修会終了後、施設見学。学校施設とは言え、圧巻の整備状況。



5月16日 (午後)

(日置市 鹿児島県立農業大学校)
いちごの苗を栽培している農業大学校の生徒。



5月16日 (午後)

(日置市 鹿児島県立農業大学校)
研修終了後の集合写真。ここでの研修の成果を町政発展の為、改めて貢献できるよう頑張ります。

《先進地研修報告》

平 博人 議員

今回伊仙町議会の一員として、研修・視察に初めて参加させて頂きました。研修地は南薩地区の観光地として有名な、指宿市の開聞農産物販売所「おふくろの里」と日置市吹上にある鹿児島県立農業大学の2か所で、主に農業に関する視察でした。おふくろの里では、地域の方々と農産物の生産・販売・運営・経営状況・販路拡大や後継者育成などについてお話を伺い、ここは昭和62年に無人販売所としてスタートさせた施設で、現在は年間5,700万円を売り上げ、その利益の一部を出品する農家の方々に分配するという、とても地域の女性だけで立ち上げたとは思えない程の斬新さや力強さを感じる直売所でした。町の産業構造や農林業についても詳しく説明をして頂き、現在地方では農家の高齢化や人口減に伴う担い手不足は深刻な問題でありますが、そのなかにあっても、果菜類や花卉、観葉を中心に年間270億円もの生産額を挙げる指宿市の農業形態は非常に衝撃的でした。

次の研修地であります「鹿児島県立農業大学校」では、農業や畜産に関する養成、研究、研修についての講義を受け、「農業を担う優れた人材の確保」「就農志向者等に農業における基礎的な知識と技術の習得」

「農業機械安全使用に関する知識、技術の習得」「地域のリーダーとしての課題解決手法の習得」等、大変興味深い内容でした。

TPPの問題や担い手の問題等、これからの農業を取り巻く環境は決して明るい状況とは言えないと思います。しかし、今回視察させて頂いた地域の皆さんや学生たちは、皆明るく元気で、真剣に農業と向き合い、考え、町の為や将来の子供たちのために所得向上に向け、必死になっっていることを痛切に感じました。

我々伊仙町議会も、今回の研修並びに視察で学んだことをいかに、町政に反映させるかという使命を持ち、これからの町勢発展の為に頑張っていきたいと思っています。

牧 徳久 議員

はじめに

風薫る新緑の季節となりましたが、農家の皆様方におかれましては、多忙を極めた、さとうきびや馬鈴薯の収穫作業も終わり、やっと一息ついていいる事と推察申し上げます。

今般、県町村議会議員研修会への参加を機に、1泊延泊して我々新しい議員全員で指宿市の開聞農産物販売所「おふくろの里」と鹿児島県立農業大学校の先進地研修を行いましたので、ここにご報告申し上げます。

まず一日目、県町村議会議員

研修会では、エコノミスト 明治大学政治経済学部准教授 飯田 泰之 氏が「世界経済とわが国の景気の展望」と題して講演があり、経済を語るための5つの基礎を示しながら、持論を展開し、またアベノミクスの中間評価では、安倍政権が掲げる三本の矢「大胆な金融政策」「機動的な財政出動」「民間投資を誘発する成長戦略」政策に効果を期待しつつ、日本経済の景気は緩やかな回復を続けている。

消費税は89年に導入され、97年には5%に引き上げられ、本年4月から8%となったが、消費税を増税しても経済成長はなく、一時的な財政再建よりも景気の悪化による成長経済喪失の方が深刻など課題を展望しながら訴えていました。

続いて、鹿児島県教育委員会次長 原之園 哲哉 氏が「鹿児島県の教育を支えているもの」人の子も わが子も みんな地域の子ども」と題して講演があり、厳しい財政状況や本格的な人口減少、超高齢化社会の到来など社会のあらゆる面で大きな変革期を迎えているなかで、「かごしま将来ビジョン」を策定、これは本県のあるべき姿や、進むべき方向性を盛り込み、県政の基本的な方向性を示すものです。また、平成26年度から向こう5年間で取り組むべき施策を体系化した「県教育基本計画」を基軸に、本件教育の実態や現状を分析しながら、詳細な説明がありました。

2日目は、薩摩半島の最南端に位置する、指宿市の開聞農産物販売所「おふくろの里」を訪問し、観光と農業のまち、選挙区が鹿児島2区という同じ条件であり、世界自然遺産登録を目指す奄美群島ですが、離島という地理的条件や台風常襲地帯というハンディを乗り越え、南北600Kmに及ぶ変化に富んだ観光立県かごしまを更に更新しつつ、交流人口の拡大など効果を発揮したいものです。

「おふくろの里」は、指宿市が運営するそうめん流しで有名な唐船峠公園の入り口一角に設置され、生活研究グループを中心に、町内の農村女性が農産物の生産販売を行っていました。昭和62年に無人販売所からスタートし、平成5年から有人化、平成9年に運営会を結成し13名で運営していました。

野菜、花、漬物等すべて1品100円で販売し、平成25年度の売上が5,700万円ということでありました。また、農家登録者数425名、100円束1件につき15円(15%)の手数料を差し引き85円を翌月、農協の口座へ振り込み、更に年末の12月に総出荷分の5%を農家に還元する仕組みで、当町にある「白菜」と大体同じであるが、100円単価であり、値段的にも相当安価で新鮮な気が致しました。また、3,000円分の新鮮野菜等を詰め合わせた「ふるさと便」も取り扱っており、

京阪神などの大都市の消費者へも郵送し、大変好評であり人気が上昇しつつあるような感じが致しました。

木造1棟30㎡の小さな建物ではありましたが、これだけ売上を伸ばし、維持してこられた運営会の皆様方には改めて、感銘すると共に「白菜」も町の支援に頼らずに自活する時期ではないかと思いました。

次に、鹿児島県立農業大学校では、学校の沿革や概要などの説明を受けた後、農業後継者確保の観点から、意欲ある新規就農者の確保育成を図るため、経営開始から定着に至るまで、総合的に支援する制度を設けるなどとして、学生は勿論、一般向けにも新規就農支援研修を行っている旨でありました。このことに関して議員から「こういった講座などを我々、離島でも出前講座という形でできないか。」という質問がありましたが、農業改良普及課などと連携すれば可能ということでありました。現地見聞では、ハウス等の施設を研修終了後に行いましたが、私は今回の先進地研修に参加わり、農業の担い手不足やTPP問題など農業を取り巻く環境の課題は山積していますが、「農業と観光立県のかごしま」を改めて再認識し、議会活動を通じて、片言でも町政発展に貢献できればと願うばかりです。末筆ながら、町民の皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げます。研修報告とさせて頂きます。

去る4月6日に開催されました、「戦艦大和を旗艦とする戦没将士慰霊祭」を前に、伊仙町議会において、慰霊祭の会場となる犬田布岬の清掃作業（4月4日）を行いました。当日は、役場職員と地元住民の皆様のご協力も頂き、潮風が強く吹きすさむなか、広大な公園の敷地を全員で手分けをして無事清掃作業を終了することができました。ここに伊仙町議会の呼びかけにご理解とご協力を賜りました皆様方に、誌面をもって御礼にかえさせて頂きます。ありがとうございました。

伊仙町議会議員一同



議会のうごき

1月	4日	出初式（伊仙中学校）
5日	成人式（ほーらい館）	
20日	鹿児島県町村議会議長会第4回理事会（県自治会館）	
21日	平成26年 新春時局問題セミナー（県自治会館）	
23日	鹿児島県町村議会議員研修会に議長が出席（県自治会館）	
	伊仙町人権教育・啓発基本計画策定委員会に議長が出席	
	（中央公民館2階ホール）	
25日	徳之島建設業協会新年会（天城町）	
27日	鹿児島県町村議会議長会緊急役員会に議長が出席	
	（県自治会館）	
31日	平成26年 第1回伊仙町議会臨時会告示	
2月	2日	伊仙町議会任期満了
4日	平成26年 第1回伊仙町議会臨時会（本会議場）	
	※第33代 伊仙町議会議長 琉 理人 選出	
5日	徳之島三力町議会議員連絡協議会役員会へ議長が出席（天城町）	
6日	「徳之島三力町議会議員大会」開催に伴う提出議題について	
	徳之島地区地域自立支援協議会との意見交換会（議会委員会室）	
7日	議会広報編集委員会に議長が出席（議会委員会室）	
10日	議長選出に伴う「南日本新聞」の取材（議長室）	
12日	九州電力奄美営業所との意見交換（議長室）	
13日	議会広報編集委員会・議会運営委員会に議長が出席	
	（議会委員会室）	
14日	徳之島三力町議会議員大会（天城町）	
17日	町執行部との議会運営に関する協議（町長室）	
19日	第2回伊仙町人権教育・啓発基本計画策定委員会に議長	
	が出席（中央公民館2階ホール）	
26日	奄美群島広域事務組合他議長会主催会合に議長が出席（奄美市）	
3月	1日	樟南第二高等学校卒業式に議長が出席（天城町）
3日	鹿児島県立徳之島高等学校卒業式に議長が出席（徳之島町）	
4日	職員朝礼にて議長就任のあいさつ（中央公民館2階ホール）	
7日	平成26年 第1回伊仙町議会定例会告示	
	議会運営委員会に議長が出席（議会委員会室）	
11日	平成26年 第1回伊仙町議会定例会	

※ 掲載されている行事以外にも、各種協議会及び集落行事等にも出席しておりますが、予めご了承下さい。

編集後記

1月の議会議員選挙において14名の議員が誕生し、新たな議会構成の中、平成26年第1回定例会が3月11日から20日までの日程で開催されました。主な内容は、町長の施政方針演説、一般質問、平成26年度当初予算の審議等でありました。とりわけ、予算審議は町民の皆様方の生活に直結する重要なものでありますから、当初予算審査特別委員会を設置し、担当職員から詳細な説明を受け、各委員が活発な質疑を行い審査、議決致しました。

今後とも私たち議会は、厳しい財政状況の中、限られた予算が適正かつ効率的に執行され、住民全体の利益に奉仕されているのかを厳しくチェックしていきます。

各種委員会構成にも異動があり、私たち広報委員も新たなメンバーでスタート致しました。年齢や社会経験、議員在職年数の異なる5名の議員で構成されております。議会だよりを発行するに当たり、それぞれの持味や感性を生かし、分かりやすい紙面構成を心がけながら町民の皆様への議会活動報告を行って参ります。

全議員がそれぞれ、懸命に議員活動を行っておりますが、やはり1人の人間としての限界があります。より多くの町民の方々による指摘や助言、叱咤激励があればこそ新たな発見ができ、私たち議員も成長していけるものだと考えております。そういった意味からも議会に対するご意見や要望等をお寄せ頂き、活発な議会活動ができますようご協力をお願い申し上げます。

（文責 福留 達也）

議会広報編集委員会

委員長	牧 徳久
副委員長	福留 達也
委員	美山 保
委員	平 博人
委員	永岡 良一